リルケ詩集

ピエール・デグロープ編
大山定一　伊吹武彦　芳賀檀　訳

RILKE
par Pierre Desgraupes

世界現代詩叢書 2

リルケ詩集

Collection

Poètes d'aujourd'hui

RAINER MARIA RILKE

par

Pierre Desgraupes

Originally Copyrighted by Pierre Segers, Paris.
Copyrighted in Japan by Leon Prou.

リルケ詩集

昭和26年8月15日　初版発行
昭和26年8月30日　再版發行

定價 190 圓

譯者　大山定一
　　芳賀檀
　　伊吹武彦

發行者　東京都中央區日本橋小舟町 2/4
　　矢部良策

印刷所　東京都千代田區神田錦町 3/14
　　大文堂印刷株式會社

發行所　東京都中央區日本橋小舟町 2/4
　　大阪市北區樋上町 45
　　株式會社 創元社
　　電話カヤバ町 (66) 2064. 4083. 5263
　　振替　東京・1565　大阪・57099

萬一亂丁落丁本がありましたら取替へます。

目次

未發表作五篇

リリアーヌへの手紙……伊吹武彦譯……一〇
兄　妹……（大山定一譯）……一三
モニックに……一六
ロンダ……一八
トレド……二〇

形象詩集

大山定一譯

寂　寥……二四
秋立つ日……二六
或る時……二八
フィナーレ……三〇

時禱詩集

大山定一譯

獻　詩……（伊吹武彦譯）……三一
あたかも年輪のやうに……三三
靜寂が深い水のやうに滲へて……三四
ぼくは暗黑から……三六
不安にをののくものよ……三八
嶮しい時間の傾きを……四〇
人間はみんな自分自身を振りすてて……四二
あなたを推しはかる勝手な噂が……四四
あなたを求める人々は……四六
誰かがふと夕餉の席を立つて……四八
あなたは未來です……四九
晝間、あなたは……五一
もしかするとぼくは……五二

貧しさと死の書

大山定一譯

主よ、おほきな都會は……五六

試读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

新詩集

詩人の死……大山定一譯……七〇
一九〇六年の自畫像……七二

マルテの手記　大山定一譯

九月十一日トウリエ街にて……七六
顏について……七七
老侍從の死……八〇
……があるかも知れぬ……八六
途方もなく大きなもの……九〇
サン・ミシェル大通りの一老人……九一
手の話……九八
マルガレーテ・ブリッゲ夫人……一〇三
最後の處置……一〇八
醫學書生……一一四

ドイノの悲歌　芳賀檀譯

第一の悲歌……一二
第二の悲歌……一三〇
第六の悲歌……一三七
第八の悲歌……一四一
註……一四八

オルフォイスに應ふるソネット　芳賀　檀譯

ほんに、それは乙女であつた……一五四
この地に生ひしものであらうか？……一五六
立琴あげて、うたひし人こそ……一五八
つぶらなる林檎……一六〇
オレンヂを踊れ……一六二
（友よ、貴方は孤獨だ……）……一六四
（牧場の朝のアネモネを……）……一六六
（花よ、御身らはすべて花をととのへる……）……一六八
（審判の長（おさ）らよ、御身らは何故……）……一七〇
泉　ふく口よ……一七二
（吾々がいつも引き裂く場所は）……一七四

（何としてかくも鳥の叫びが……）……一七六
靜かな友よ……一七七

若い詩人への手紙

大山定一譯

一九〇三年七月十六日……一八二
一九〇三年十二月二十三日……一八六
一九〇四年八月十二日……一九〇

ルー・アンドレアス・サロメへの手紙

大山定一譯

一九〇三年八月八日……一九八
一九〇三年八月十日……二〇八
一九〇三年八月十一日……二一二

ライナー・マリア・リルケ

ピエール・デグロープ
伊吹武彦譯

「批評の言葉ほど悪いものはない」……二一七
「それを傳記のやうに語ることをためらふのは……」……二二八
「何事かが起らねばならぬ」……二四六

附　記……二九
あとがき……二八〇

裝幀　福澤一郎

リルケ詩集

Collection

Poètes d'aujourd'hui

RAINER MARIA RILKE

par

Pierre Desgraupes

Rainer Maria Rilke

Digitized by Google Original from Princeton University

目次

未發表作五篇

リリアーヌへの手紙……伊吹武彦譯……一〇
兄　妹……（大山定一譯）……一三
モニックに……一六
ロンダ……一八
トレド……二〇

形象詩集

大山定一譯

寂　寥……二四
秋立つ日……二六
或る時……二八
フィナーレ……三〇

時禱詩集

大山定一譯

獻　詩……（伊吹武彦譯）……三一
あたかも年輪のやうに……三三
靜寂が深い水のやうに滲へて……三四
ぼくは暗黑から……三六
不安にをののくものよ……三八
嶮しい時間の傾きを……四〇
人間はみんな自分自身を振りすてて……四二
あなたを推しはかる勝手な噂が……四四
あなたを求める人々は……四六
誰かがふと夕餉の席を立つて……四八
あなたは未來です……四九
晝間、あなたは……五一
もしかするとぼくは……五二

貧しさと死の書

大山定一譯

主よ、おほきな都會は……五六

新詩集

詩人の死……大山定一譯……七〇
一九〇六年の自畫像……七二

マルテの手記　大山定一譯

九月十一日トウリエ街にて……七六
顏について……七七
老侍從の死……八〇
……があるかも知れぬ……八六
途方もなく大きなもの……九〇
サン・ミシェル大通りの一老人……九一
手の話……九八
マルガレーテ・ブリッゲ夫人……一〇三
最後の處置……一〇八
醫學書生……一一四

ドイノの悲歌　芳賀檀譯

第一の悲歌……一二
第二の悲歌……一三〇
第六の悲歌……一三七
第八の悲歌……一四一
註……一四八

オルフォイスに應ふるソネット　芳賀　檀譯

ほんに、それは乙女であつた……一五四
この地に生ひしものであらうか？……一五六
立琴あげて、うたひし人こそ……一五八
つぶらなる林檎……一六〇
オレンヂを踊れ……一六二
（友よ、貴方は孤獨だ……）……一六四
（牧場の朝のアネモネを……）……一六六
（花よ、御身らはすべて花をととのへる……）……一六八
（審判の長（おさ）らよ、御身らは何故……）……一七〇
泉　ふく口よ……一七二
（吾々がいつも引き裂く場所は）……一七四

（何としてかくも鳥の叫びが……）……一七六
靜かな友よ……一七七

若い詩人への手紙

大山定一譯

一九〇三年七月十六日……一八二
一九〇三年十二月二十三日……一八六
一九〇四年八月十二日……一九〇

ルー・アンドレアス・サロメへの手紙

大山定一譯

一九〇三年八月八日……一九八
一九〇三年八月十日……二〇八
一九〇三年八月十一日……二一二

ライナー・マリア・リルケ

ピエール・デグロープ
伊吹武彦譯

「批評の言葉ほど悪いものはない」……二一七
「それを傳記のやうに語ることをためらふのは……」……二二八
「何事かが起らねばならぬ」……二四六

附　記……二九
あとがき……二八〇

裝幀　福澤一郎

试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com